

田村のつぶやき 第28号

2024.7.22 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

UNHCR

UNHCRという組織をご存じですか。UNはUnited Nationsの略称ですから、国際連合(国連)の組織であろうと予想はつくと思います。日本では、**国連難民高等弁務官事務所**と称しています。第二次世界大戦後の1950年、避難を余儀なくされたり、家を失ったりした人々を救うために設立されました。当初は3年で難民の救済活動を完了し、解散する予定でしたが、世界各地で紛争が続き、今なおUNHCRは、世界中の難民の保護や支援に取り組んでいます。1991年から2000年までの10年間、緒方貞子さんが日本人として、また女性として初の国連難民高等弁務官に就任していました。ちなみに、2000年の国連総会で毎年6月20日を「世界難民の日」とすることが決議されました。

先日、そのUNHCRの職員である(あった)お二人の方の講演を聴く機会がありました。講師のお名前と講演のテーマは次のとおりです。

内藤俊雄さん「パレスチナって? イスラエルってどういう国?」

伊藤礼樹さん「ウクライナ、ガザ、そして世界の難民」

内藤さんは、松江市出身で、UNHCR職員としてIT部門を統括し、ヨーロッパ、アフリカ、中南米、中東、アジア各地で緊急事態の技術支援やシステム開発に従事され、2021年に退職された後、帰国されました。

伊藤さんは、東京都出身で、国連ボランティアとしてボスニアの人道支援活動に参加して以来、UNHCR職員としてミャンマー、レバノン、スーダン等で難民支援を続け、2023年からUNHCRの駐日代表を務めておられます。

お二人は、今まさに大きな問題となっている、パレスチナとイスラエルの関係、ウクライナ難民の現状などをお話しされました。そもそも「難民」とは、人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するという理由で、自国にいと迫害を受けるおそれがあるために他国に逃れ、国際的保護を必要とする人々と定義されています。2022年末時点で、1億人を超す人々が紛争や迫害により故郷を追われています。この数には、UNHCRが支援対象としているいわゆる難民のほか、他国に逃れることすらもできない国内避難民などの数も含まれています。難民の主な出身国としては、ウクライナ、シリア、アフガニスタンの3カ国で全体の半数以上を占めています。

パレスチナとイスラエルの問題は、これまでの歴史的経緯や背景が複雑で、簡単に解決の糸口が見つからない問題ではあります。ウクライナとロシアの対立も泥沼化しています。そうしたなかで、多くの人々が家を失い、家族を失い、故郷を追われ、不自由な生活を余儀なくされています。内藤さんも伊藤さんも、まずは難民のことを多くの人に「知って欲しい」と訴えていました。少しでも関心を持った人は、ぜひ、以下のサイトにアクセスしてみてください。

<https://www.unhcr.org/jp/>